

令和6年 3月4日

出張報告書

栗山町議会議長

鵜川 和彦 様

栗山町議会議員

端

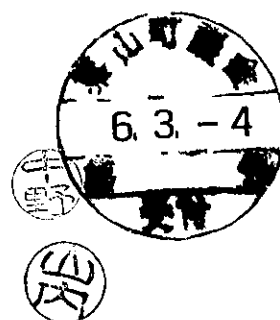
師 孝



このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

- 1 期 日 令和6年 2月 4日
- 2 出張先 東京都
- 3 研修事項 政策サイクル推進地方議会フォーラム
- 4 関係書類 別紙のとおり



ミライの議員・議会のために

～住民福祉の向上と地方議会の政策サイクル～

- バックキャストでミライの議会・議員の姿を展望！
- 議員のなり手不足解消とコミュニティ自治の行方は？
- 議会は住民自治のプラットフォームだ！

開催趣旨

北海道栗山町議会による議会基本条例の制定(2006年)から17年余りが経過しました。議会改革は第2ステージに入ったと言われますが、形式的な改革から実質的な改革への歩みはまだ本格的なものになっていません。2023年統一地方選においても議員選の投票率の低下、無投票率の増加に歯止めがかからず、一部では女性議員が増えたものの、町村を中心に議員のなり手不足はより深刻化・クローズアップされました。

(公財)日本生産性本部では、「地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会」(座長＝江藤俊昭・大正大学教授)、
「地方議会成熟度評価モデル」を開発するとともに、評価の実装化を通じて地方議会におけるさらなる住民福祉の向上を支援してきました。成熟度評価では「議会からの政策サイクル」の確立が前提となると同時に、「バックキャスト」でミライの議会・議員のありたい姿を展望することで、これから本格化する人口減少社会に議会・議員がいかに適応していくかを考えてきました。

本セミナーでは、議員のなり手とも密接にかかわるコミュニティのあり方とともに、ミライの地方議会・議員の姿を展望します。

会場 全国町村会館 2階ホール
(東京都千代田区永田町1-11-35)

対象 地方議会の議員、議会事務局の職員
他

定員 100名(会場定員、先着順)
※オンライン配信は行いません。

登壇者

2024年2月4日(日)
13:30～17:30

お申込みは
こちら



参加費 議員 11,000円
議会事務局職員・市民等 5,500円
※いずれも税別

コーディネーター:千葉茂明(日本生産性本部上席研究員)



大正大学
社会共生物学部教授
江藤 俊昭 氏

えとう・としあき 1956年東京都生まれ。中央大学大学院法学研究科博士課程満期退学。博士(政治学)。マニフェスト大賞審査委員、(公財)日本生産性本部「地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会」座長、第29次・第30次地方制度調査会委員などを歴任。『議会改革の第2ステージ』『自治体議会学』『地方議会改革』『議員のなり手不足問題の深刻化を乗り越えて』『非常事態・緊急事態と議会・議員』など著書多数。



東京都立大学
法学部教授
大杉 覚 氏

おおすぎ・さとる 1964年横浜市生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。専門分野は、行政学、地方自治論。東京都立大学法学部助教授を経て、2005年から現職。総務省地域づくり人材の養成に関する研究会座長などを始め、国・自治体の審議会等委員を歴任。著書に、『コミュニティ自治の未来図』『これからの地方自治の教科書 改訂版』など。



兵庫県西脇市議会
議長
林 晴信 氏

はやし・はるのぶ 1967年西脇市生まれ。甲南大学経済学部卒業。1996年、28歳で西脇市議会議員初当選(以降8期連続当選)。第9代、第11代、第13代議長。議長就任以降、西脇市議会を早稲田大学マニフェスト研究所議会改革度ランキング全国1位(2018年度)、日経グローバル議会活力度ランキング全国1位(2019年度)に導く。「議会は住民の中にある」「議会は住民自治のプラットフォーム」を掲げ、議会活動の傍ら、全国の自治体議会議員に研修講演等を精力的に行う。

※登壇者の肩書きは2023年11月5日時点



公益財団法人 日本生産性本部

日 時	令和 6 年 2 月 4 日 13:30～17:30
視 察 先	東京都千代田区永田町 全国町村会館
調査事項	日本生産性本部「政策サイクル推進地方議会フォーラム」 公開セミナー「ミライの議員・議会のために～住民福祉の向上と 地方議会の政策サイクル～」
対 応 者	なし
1. 視察目的 2. 視察内容 ① 背 景 ② 特 徴 3. 主な質疑 4. 考 察 (感想、政策提 言、課題など)	1. 目的 過日、令和5年11月16日9:00に、本公開セミナー登壇者である江藤俊昭氏が本町へ来庁いただき、夏より組織された「町村議会議員なり手不足対策検討会」の委員長である江藤氏が先進地の現地調査として、栗山町議会の令和4年度の「議員の学校」の取組を中心に調査を受けた。議長、副議長と議員の学校を受講し今期の当選をした新人3人も同席した。 その後の調査内容についてと、江藤氏のセミナーに関心を持ったことと、表題のと通りの調査事項を勉強したくて受講した。 2. 内容 日本生産性本部「政策サイクル推進地方議会フォーラム」公開セミナー登壇者 ①大正大学社会共生学部教授 江藤俊昭（えとう としあき）氏 議会・議員の過去・現在・ミライ 「住民自治の根幹」としての議会の作動 ②東京都立大学法学部教授 大杉寛（おおすぎ さとる）氏 コミュニティ自治とミライの議会 ③兵庫県西脇市議会議員・前議長 林晴信（はやし はるのぶ）氏 議会は住民自治のプラットフォーム ④公益財団法人日本生産性本部上席研究員・元月間『ガバナンス』編集長 千葉茂明（ちば しげあき）氏 3. 感想 ・今までにやっていないことは、まず構想することから始める。イメージしてから新しいことをやる。 ・住民に対して福祉の向上につなげることは、成果まで考える。 ・議会は、公開の場でしっかり討論して決定する場である。他事例で、

良い成果につなげれるものは徹底的に真似して、議会の議論に上げる。そして広げる。それが今後の議会改革につながる。

- ・政策サイクルには品質が大事で、より良い品質のサービスには、経営体となるシステムが重要。システムがあるとより良いサービスが生まれるため。また、バージョンアップには評価も欠かせない。

- ・執行権は、大事な権限が地方にはある。議会に与えられている権限として、多様な人が公で討論し決定できること。俯瞰しながらベターを選択する、そして重い決定をすることができる。個人の質問レベルでは変えれないことは、委員会として提言することで思い強い力になる。議会の質問に変えていく。議決とはとても重いものである。

- ・住民福祉の向上という成果に対して、成果につなげれないものを議会ではないという考え方。

- ・ミライの議会の「持続可能性」は継続性とは異なり変革志向の言葉である。

- ・いかに多様化を求めようとも、コミュニティと議会がそれぞれ多様化や開かれた状態でなければ、接続できず意味が無い。両者を接続する役割をもって取組をすることが重要。

- ・地域コミュニティには、シビックプライド（当事者意識と誇り）を持った地域づくりが求められる。

- ・議員は、解決までにいたらなくてもコミュニティのリーダーという自覚の再確認が必要。先導したり伴走したり媒介したりといった機能が期待される。

- ・議会力は、個の強い議員がいても、活かす議会でなければ、掛け算として考えることができ片方が0であれば0と同じことがいえる。

- ・議会や議員は結果を報告、やったことでいいこと（手柄）は住民へしっかり広報すべき。住民は気づかない、知らない。アクションが求められる。

上記の点について特に印象に残った。私自身、議員という新しい立ち位置になり1年目、先進的な議会の取組を行ってきた本町議会にしながら様々なしるや価値観に触れ、話に傾聴することで気づくことが多くある。取捨選択し、今後の私自身の成長とともに対話スキルを磨き、議会改革並びに議員の資質向上に働きかけ、住民福祉の向上に役立てたい。